毎日新聞
2013年（平成25年）12月12日（木）夕刊

近所の友人 心の支え

悲劇を越えて 下

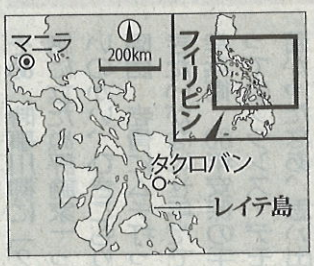
台風被災1カ月のレイテ

長男亡くし避難所暮らしの女性

「友人が心の支え」。台風30号で長男ディノさん(24)を失ったレイテ島東部タクロバンのナリサ・エストラーダさん(43)は、市中心部の高校を利用した避難所で、共に逃げた近所の友人らに囲まれながら、以前の明るさを少しずつ取り戻しているようだった。

被災から約2週間後、自宅近くでようやくディノさんの遺体が見つかった。すぐ臨時の共同墓地に埋葬され、ナリサさんは最後の別れをすることはできなかった。フィリピン国家災害対策本部によると、今も行方不明者は1779人にのぼる。

タクロバンの避難所は30カ所、1万663人が暮らす。ナリサさんのところは、家族ごとに教室が割り当てられ、被災前に住んでいた地区の住民同士がまとまって暮らす。子どもたちの歓声や井戸端会議に興じる女性たちの笑い声が絶えず、食事時ともなるとちょっとしたお祭り騒ぎだ。



ナリサさんは3年前に夫を病気で亡くし、今回、頼りのディノさんも失った。友人との楽しい会話が、悲しみを癒やしてくれるという。避難所は、授業再開のため来年1月の閉鎖が決定。ナリサさんが笑顔を見せた。「ここを出ても、またみんなで元の地区に戻り、助け合いながら暮らしていきたい」

◇

高潮被害の現地調査に入った柴山知也・早稲田大教授（海岸工学）によると、今回亡くなった多くは低所得者層で、限られた平地に密集して暮らし、家屋も脆弱だった。

タクロバン市内の避難所で、夕食後に友人たちと談笑するナリサさん（中央）＝フィリピン中部で7日、佐藤賢二郎撮影

1959年に5000人以上の死者・行方不明者を出した伊勢湾台風の高潮は、浸水高は3・5㍍だったが、タクロバンなどで5㍍、場所によっては7㍍を超える地点も確認されたという。

柴山教授は「温暖化で台風がより強力になり今後、日本でも同じ高さの高潮が発生する可能性もある」とみる。ただ、台風の進路や風向きによるため特定の地点での予測は難しい。柴山教授は「高潮から命を守るには、コンクリート造りの堅固な建物の3階以上に逃げ込むのがいい。フィリピンでは、頑丈で屋上に上れる学校を建てるのが対策になる」と指摘する。

【タクロバン（フィリピン中部）で袴田貴行、金子淳】

＝おわり